

第1部 私の問題意識

第1 自己紹介

○S24. 1 愛媛県松山市生まれ

○家は日蓮宗だが宗教心うすい。仏壇、お盆のお墓参りもなし

○H7. 9 芦屋中央地区まち協にて西法寺上原副住職と知り合う。

以後まち協活動のみならず幅広く交流

第2（仏教とのきっかけ1） 西本願寺見学

○H9. 7. 13 西本願寺見学

○秀吉と本願寺の関係を自分の目で見た。

○歴史上の話との一致、不一致

第3（仏教とのきっかけ2） 応典院の落成式出席

1. お寺の特色

○お寺は収入あり。時間的に自由

○お金儲けに走るのも、お寺の拡大路線を走るのも自由。

また細々とお寺を運営するのも自由、つぶすのも自由

→弁護士も宗教法人の税法上の特典を除き、似たところあり。

2. お寺の役割

○昔から寺子屋としての教育的役割

→地域の子供の読み、書きの学習の場

○祭り、お盆等地域のイベントの場提供

→総合的に地域のオピニオンリーダー的役割

3. お寺の意欲

○収入、時間の安定の下で情報発信基地の機能、

地域住民の学習、交流の場の提供等の意欲

○僧侶は知識、訓練、経験、組織を持っている。

→僧侶のセンス次第でかなりの役割を果たすことが出来る。

第4 僧侶と専門家

1. 僧侶と建築家——T氏の例

2. 僧侶とコンサルタント——F氏の例

3. 僧侶と法律家（元東京高検検事長）

4. 僧侶と企業家（経営者）

→僧侶として人の心の読解+専門的な職能、技能の活用

第5 オウムなど新興宗教、カルト集団と宗教

1. なぜオウムが広がったか

○若者の不安、夢のなさ、刹那主義etc が根底

○政治、経済、防衛、国づくりetc すべての面で戦後50年の矛盾が噴出。

その修正方向の模索——ex. 行政改革

○民主主義の形骸化、個人主義の膨張、公（パブリック）の後退、

教育・スポーツ等の横ならび現象

2. 日本の若者はこれからどう生きるべきかの模索

1) プラス面

○阪神大震災のボランティアのエネルギー

○音楽の世界における若者のエネルギー、創造性 など

2) マイナス面

○水泳、柔道、ゴルフなどすべてのスポーツ競技は勝敗どころ

でせりまけ（→なぜか）

○神戸小学生殺人事件をはじめ少年凶悪事件の増大

○無気力

→法律、経済、建築、音楽、スポーツ、料理 etcの専門（職）を迫

求する中で人としての生きる道の模索

→宗教（者）はそれを総合的にコーディネートする役割

3. 夢、希望、未来、幸せなどがキーワードだがそれが死語

日本経済新聞社『2020年からの警鐘—日本が消える』 40ページ

○国際教育到達度評価学会が1996年に行った数学、理科の国際的学

力比較の結果

・日本の中学生はO×式設問で成績がよい（全体で上位3位以内）。

しかし、地形を示し「この土地が農業に適さない理由を書け」との設問

では下から5番目

○いい職業につくための学歴効果は、1位ドイツ2. 52、日本は1. 34

で13カ国中12位（この数字は『学歴指数』といって指数が高いほど高学

歴がよい職業につながる）

○ベネッセ教育研究所が1996年に行った世界6カ国の小学5年生に対す

る質問

・「あなたは幸せですか」と聞かれて「とても幸せ」と答えた小学5年

生

の割合は、中国75. 1%、ニュージーランド42. 6%、米国3

9. 9%で日本は

26. 3%で6カ国で最下位

・「仕事で成功する」は韓国60. 2%、日本20. 6%

・「よい親になる」が米国63. 6%、日本21. 1%

↑日本が最下位

・「お金持ちになる」もニュージーランド32. 3%、日本12. 3%

↓

第6 淳君事件について

1. A少年の「挑戦状」をどうみるか

・日記にみる人間性

・精神異常かどうか

・精神的成熟度は

2. フォーカス事件（H9. 7/9号）をどうみるか

・少年法第61条の規定のよみ方

・表現の自由・出版の自由（憲法第21条）との関係

3. 少年法の趣旨は何か

・刑事責任年齢

・英米型・大陸型・北欧型

・旧少年法の考え方、現行少年法の考え方

・教育主義（保護優先主義）がキーワード

4. 少年の人権と被害者の人権との対比

・応報刑

・少年法改正への契機となるか

・自力救済の芽生えは

5. 一般刑事事件のマスコミ報道

・モーニングショー的とり扱い（興味本位・一過性）

・「これでもか！これでもか！」的報道

6. ホラー残虐ビデオ・セックス売り物本の規制の可否

第7 株主代表訴訟について

1. 日本の会社・法人システムの奇妙さ

・法人天国（所得税・経費・接待）の日本

・個人会社の奇妙さ

2. 上場企業の取締役の機能

・サラリーマンの夢だが確率は何万分の一

・オーナー役員が雇われ重役か

・株主への意識あるか

・株主総会の機能を何と考えているのか

・総会屋の不可避性とは

3. 日本とアメリカの「会社」のちがいは

・役員の責任と権限は

・役員の給料は

・株主への配当は

・そのチェック機能は

4. （新）株主代表訴訟の意義

・その目的・意義（手数料8, 200円）

・現実の社会的役割

・正義の味方、月光仮面か

・賠償は可能か、そのための保険は

第8 ディベート教育、自分でものを考える教育

1. ディベート教育（1997・5・23読売）

2. なぜ弾くか アイザックスターン・バイオリン講演会（1997・

6・11朝日）

第9 阪神大震災からの復興

1. 僧侶、お寺

人間が人間らしく生きていくための心づくり

→愉し、連帯がキーワード（?）

2. 弁護士（坂和弁護士）

人間が人間らしく生きていくためのまちづくり（システムづくり）

→合理的、客観的がキーワード

第10 将棋界と若者（相撲界と若者）

1. 大山・升田→中原・米長→谷川→羽生と各時代のヒーローの出現

2. 谷川出現以来、若手の能力のすごさ（「兄は頭が悪かったから東大へい

った」発言）

3. 羽生七冠王の強さと魅力（羽生不調説について）

4. 若手棋士の人柄と将棋の能力

第11 日本のゴルフのダメな点とアメリカのゴルフの奥深さ

1. 競争のレベルのちがいは（プロを目指す人口のちがいは）

2. ハングリーさのちがいは

3. 一流プレイヤーの地位、名誉、収入のちがいは

第12 「失樂園」現象をどうみるか

1. 失樂園ブーム

・日経・連載 ～

・単行本出版 1997・～

・映画「失樂園」 1997・5～

・TV「失樂園」 1997・7～

以 上

第2部 「ひろさちや」説への質問（問題提起）

Q1 「で・あ・いの精神」について

——デタラメ・あきらめ・いい加減——

（「生きるのが楽になる仏教の本」第10講）

Q2 「政治」について

（「生きるのが楽になる仏教の本」第9講）

Q3 「幸福」について

（「生きるのが楽になる仏教の本」第7講）

Q4 「大岡裁き」と「ソロモンの判決」

（「ユダヤの思考」ひろさちや—手島佑郎対談 14頁）

（「昔話にはウラがある」83頁）

Q5 サワーグレープス（すっぱいブドウ）

（「どの宗教が役に立つか」第1章）

Q6 ユダヤに学ぶ

（「ユダヤの思考」203頁）

1) 安息日をもて

2) 自分を愛すること

3) うそのない生活をしよう

Q7 日本史にみる罪と罰

ドストエフスキーの「罪と罰」

高橋和巳の「邪宗門」

との対比

（「みそぎ考」）

Q8 先見（予報・予想）

（「男盛りの雑学猿学博学」増原良彦著 188頁）

Q9 常識の非常識・非常識の常識

（「男盛りの雑学猿学博学」増原良彦著 198頁）

Q10 安心立命への近道

（「どの宗教が役に立つか」19頁）

Q11 疑わしきは罰せず

（「どの宗教が役に立つか」144頁）

Q12 昔話にはウラがある

（「昔話にはウラがある」）

浦島太郎（3話）—— 「おとな草子」として説得力あり

桃太郎（22話）—— 非常に面白い

しかし、ガリヴァーの数字は？（10話）

Q13 宗教について

（「国家・宗教・日本人」司馬遼太郎—井上ひさし対談 18頁）

親鸞が、推円に

「南無阿弥陀仏を唱えたと本当に浄土へ行けるのか？」と問われて

、「私もわからない。ただ、大好きな法然が言っているから私はそ

うだと思っている」と正直な答えをしている。

→親鸞は断言していない。それについてどう思うか？

そうなのか？ちがうのか？

Q14 子供の塾について

Q15 弁護士の仕事にみる人間関係

Q16 ひろ氏への一般的質問

Q17 長谷淳君殺人事件について

Q18 「わたし主義」「自分主義」について思うこと

Q19 「四苦八苦」について

（「生きるのが楽になる仏教の本」第1講）

Q20 「競争」について

（「生きるのが楽になる仏教の本」第2講）

Q21 「アリとキリギリス」の話

（「ユダヤの思考」181頁）

（「昔話にはウラがある」第6話 59頁）